

平成22年12月9日
高知労働局発表

担 当	高知労働局労働基準部	
	監督課長	樋口 政純
	主任監察監督官	上谷 好正
	電話 (088)885-6022	
	安全衛生課長	江口 勇次
	主任産業安全専門官	山中 敏秀
	電話 (088)885-6023	

年末年始に向けた労働災害防止対策の徹底を要請 - 経営トップによる労働災害防止対策の強化について -

本年11月末現在の高知県における労働災害の発生状況については、休業4日以上死傷者数は889人であり、前年同期と比べ、81人、10.0%増加しています。

これから迎える年末年始の時期は、特に、輸送量の増大、建設工事の輻輳、さらに保守点検等の非定常作業が多くなるなど、通常期に比べてあわただしい時期でもあり、労働災害の発生危険性が增大することから、各事業場、職場では労働災害防止のために特別な配慮が必要となるところです。

このため、高知労働局（局長 磯部 隆文）では、12月9日に、年末年始に向けて、経営トップ自らが先頭に立って、

安全衛生管理体制の確認

労働安全衛生法令に基づく措置の確認

**リスクアセスメント及び労働安全衛生マネジメントシステムの構築
に向けた取組促進**

保守点検等非定常作業における作業の確認

交通労働災害防止のためのガイドラインの遵守

林業における労働災害防止対策

の取組を徹底し、労働災害防止対策の強化を図るよう、社団法人高知県労働基準協会連合会及び労働災害防止関係団体を通じて、県内の各事業者に対して要請を行いました。

平成22年11月末時点における労働災害の発生状況について(高知労働局)

. 労働災害の発生状況の概況

1. 全産業における休業4日以上死傷災害は、889人であり、前年同期に比べ、81人、10.0%増加しています。(業種別については表1を参照)
2. 死亡災害については、9人となっており、過去最少となった一昨年(平成20年)1年間の6人を既に上回っています。なお、昨年同期に比べると、3人減少しています。死亡災害を業種別にみると、製造業で2人(前年同期と同じ)、建設業で2人(前年同期と同じ)、運輸業で1人(前年同期と同じ)、林業で1人(前年同期比2人減少)、商業で2人(前年同期比1人増加)、清掃・と畜業で1人(前年同期比1人増加)となっています。

表1 労働災害(休業4日以上)発生状況

業種	平成22年(1月~11月)		平成21年(1月~11月)		対21年比較	
	死傷者数	構成比	死傷者数	構成比	増減数	増減率
全産業	889 (9)	100.0%	808 (12)	100.0%	81 (-3)	10.0%
製造業	197 (2)	22.2%	181 (2)	22.4%	16 (0)	8.8%
建設業	134 (2)	15.1%	124 (2)	15.3%	10 (0)	8.1%
運輸業	72 (1)	8.1%	72 (1)	8.9%	0 (0)	0.0%
道路貨物運送業	58 (1)	6.5%	59 (1)	7.3%	-1 (0)	-1.7%
林業	121 (1)	13.6%	96 (3)	11.9%	25 (-2)	26.0%
その他	365 (3)	41.1%	335 (4)	41.5%	30 (-1)	9.0%

(注) 死傷者数は労働者死傷病報告による数で死亡者を含む。括弧内の数字は死亡者数で速報による。

3. 事故の型別に分類すると、最も多いものは「転倒」によるもので181人となっており、前年同期に比べ、45人の大幅増加となっています。次いで、「墜落・転落」によるもの129人(前年同期比1人減少)、「はさまれ・巻き込まれ」によるもの125人(前年同期比14人増)、「動作の反動・無理な動作」によるもの108人(前年同期比23人増)が多く発生している事故の型となっています。前年より大幅に増加している事故の型としては、「転倒」、「動作の反動・無理な動作」、「激突され」(58人(前年同期比17人増加))、「はさまれ・巻き込まれ」によるものとなっています。(表2)

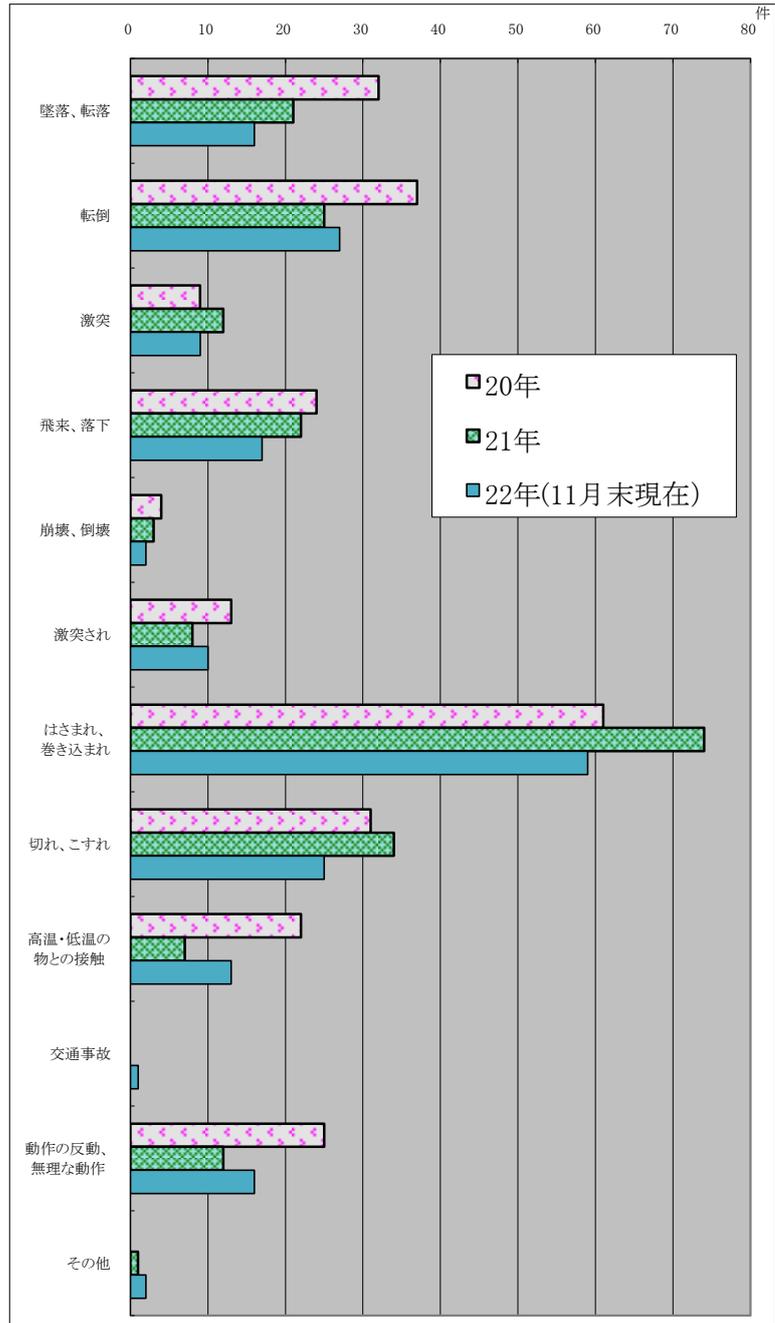
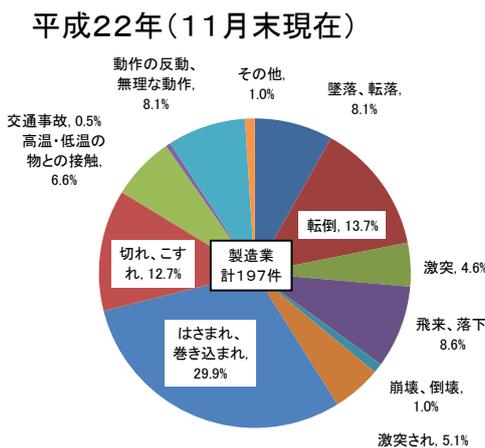
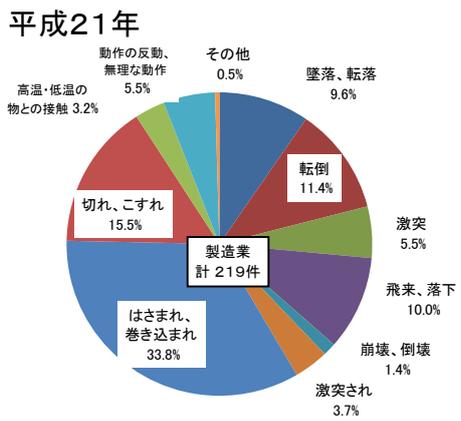
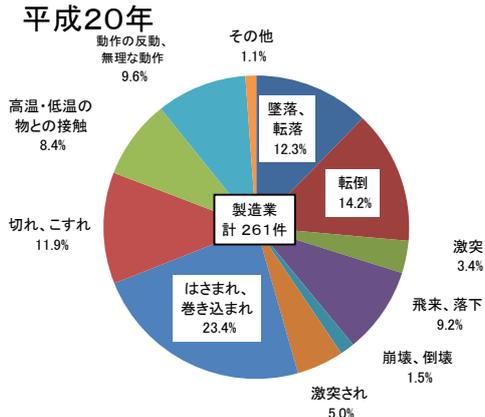
表2 業種別・事故の型別労働災害発生状況 平成22年11月末現在

業種	事故型																				計	
	1 墜落・転落	2 転倒	3 激突	4 飛来・落下	5 崩壊・倒壊	6 激突され	7 はさまれ・巻き込まれ	8 切れ・こすれ	9 踏み抜き	10 おぼれ	11 高温・低温の物との接触	12 有害物等との接触	13 感電	14 爆発	15 破裂	16 火災	17 交通事故(道路)	18 交通事故(その他)	19 動作の反動・無理な動作	90 その他		99 分類不能
全産業	129 (-1)	181 (45)	38 (-1)	52 (-2)	13 (-3)	58 (17)	125 (14)	86 (-16)	0 (-4)	0 (0)	35 (4)	7 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	49 (-5)	2 (2)	108 (23)	6 (3)	0 (0)	889 (81)
製造業	16 (-2)	27 (8)	9 (-3)	17 (-1)	2 (-1)	10 (4)	59 (-1)	25 (-2)	0 (0)	0 (0)	13 (6)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	16 (6)	0 (0)	0 (0)	197 (16)
建設業	47 (-1)	16 (1)	6 (1)	10 (-1)	1 (-1)	7 (1)	18 (6)	14 (4)	0 (-1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (-1)	0 (0)	8 (-3)	0 (0)	0 (0)	134 (10)
運輸業	15 (-2)	11 (3)	6 (0)	3 (-2)	2 (-1)	3 (2)	7 (-2)	0 (-4)	0 (0)	0 (0)	0 (-1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (1)	1 (1)	13 (4)	1 (1)	0 (0)	72 (0)
道路貨物運送業	13 (-3)	8 (4)	5 (-1)	3 (-2)	2 (-1)	3 (2)	7 (-2)	0 (-3)	0 (0)	0 (0)	0 (-1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (1)	0 (0)	9 (4)	1 (1)	0 (0)	58 (-1)
林業	12 (5)	18 (8)	0 (-2)	18 (5)	7 (0)	26 (10)	7 (2)	26 (-1)	0 (-2)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (1)	2 (-1)	0 (0)	121 (25)
その他	39 (-1)	109 (25)	17 (3)	4 (-3)	1 (0)	12 (0)	34 (9)	21 (-13)	0 (-1)	0 (0)	16 (-6)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	36 (-6)	1 (1)	67 (15)	3 (3)	0 (0)	365 (30)

(注) 労働災害死傷病報告に基づく休業4日以上死傷者数。括弧内の数字は、前年同期と比較した増減数。

事故の型別災害発生状況(製造業)

高知労働局



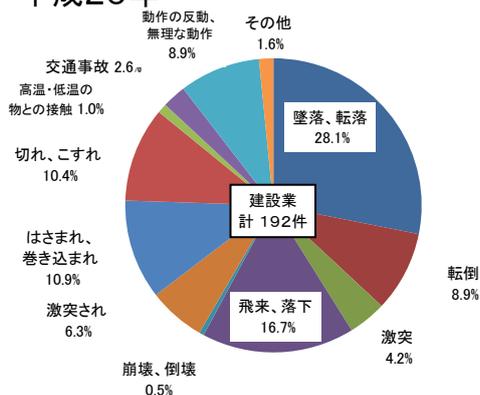
注:「その他」は、上記の単独事故型表示した以外の型である、「踏み抜き」・「おぼれ」等を合算してある。

製造業における労働災害を事故の型別に分類すると、例年多く発生している「はさまれ・巻き込まれ」によるものが最も多くなっています。災害の増加しているものとしては、「転倒」、「動作の反動・無理な動作」、「高温・低温の物との接触」、「激突され」によるものなどが挙げられます。また、起因物についてみると、「はさまれ・巻き込まれ」では、作業場内の機械によるものが多く、「転倒」では、通路が多くなっています。死亡災害については、造船業における「墜落・転落」、木材・木製品製造業における「はさまれ・巻き込まれ」によるものがそれぞれ1件発生しています。

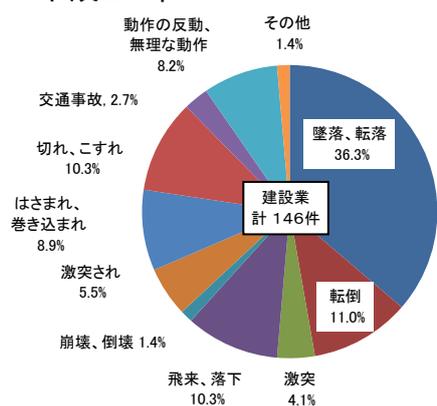
事故の型別災害発生状況(建設業)

高知労働局

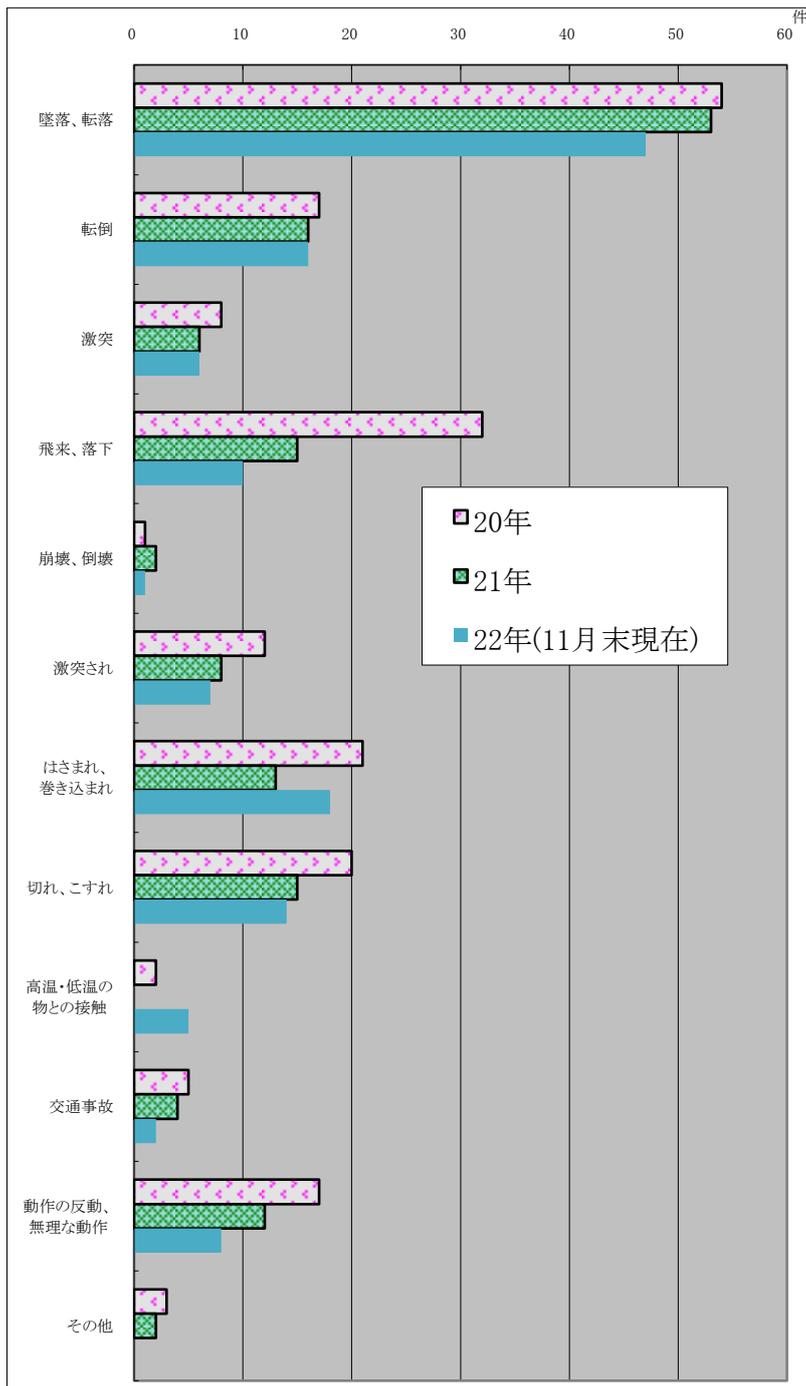
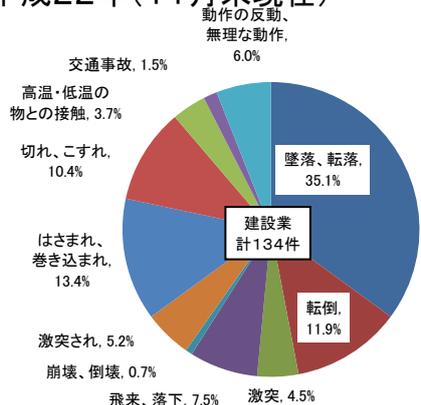
平成20年



平成21年



平成22年(11月末現在)



：「その他」は、上記の単独事故型表示した以外の型である、「踏み抜き」・「おぼれ」等を合算してある。

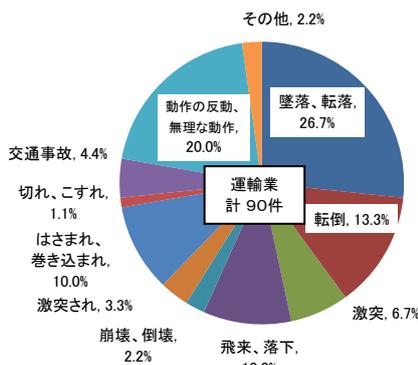
建設業における労働災害を事故の型別に分類すると、例年多く発生している「墜落・転落」によるものが最も多くなっており、死亡災害が1件発生しています。次いで、「はさまれ・巻き込まれ」、「転倒」によるものが多く、「転倒」によるものでは死亡者が1人となっています。

また、「墜落・転落」、「転倒」について起因物を見てみると、建築現場における足場や屋根などの仮設物、建築物、構築物等、トラック、はしごによるものが多くなっています。

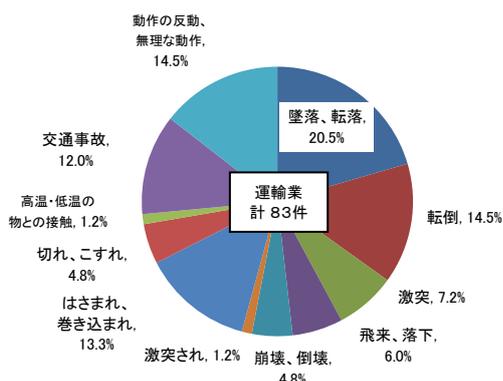
事故の型別災害発生状況(運輸業)

高知労働局

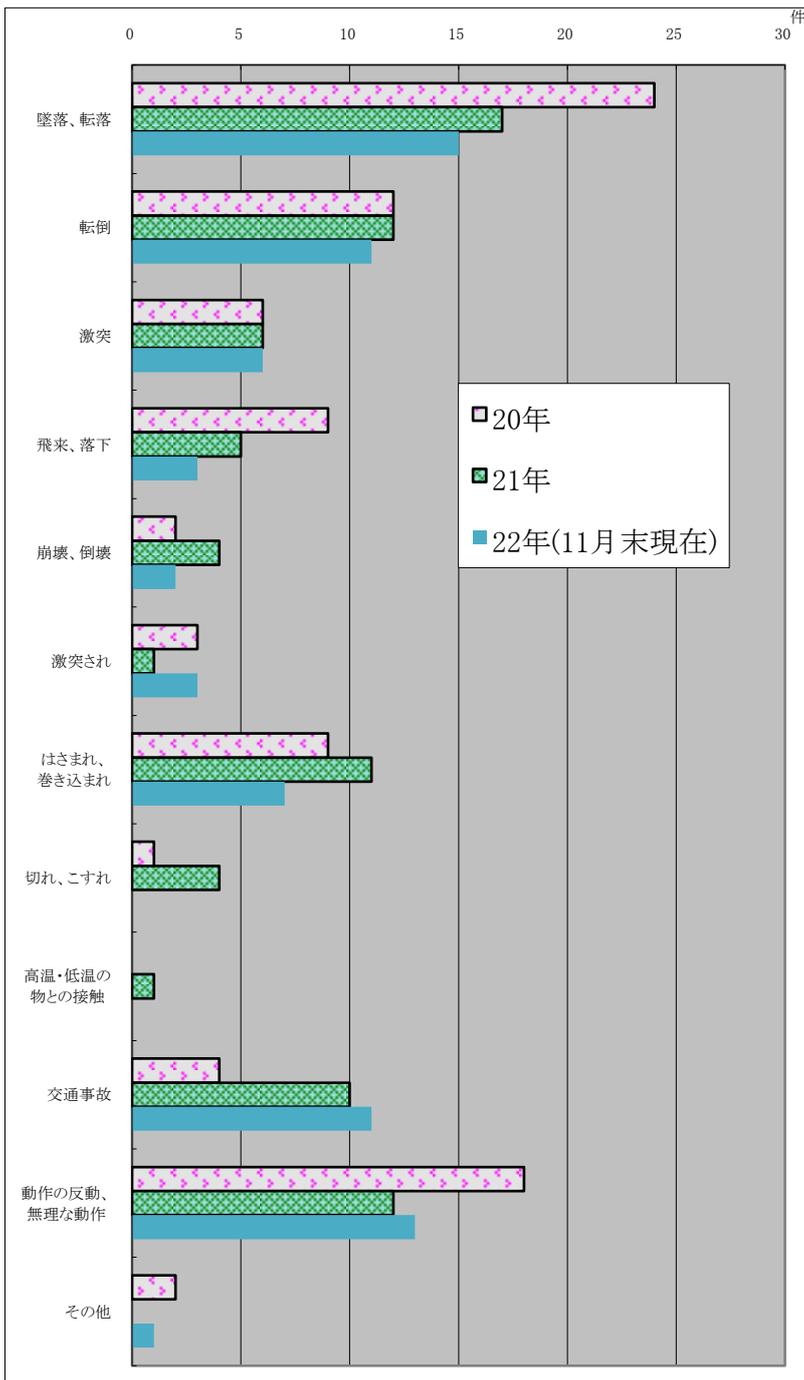
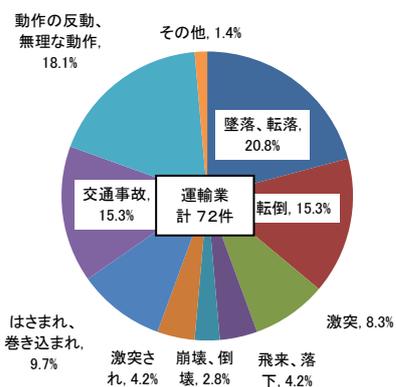
平成20年



平成21年



平成22年(11月末現在)



注:「その他」は、上記の単独事故型表示した以外の型である、「踏み抜き」・「おぼれ」等を合算してある。

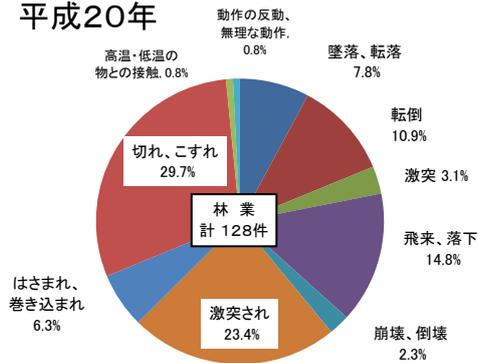
運輸業における労働災害を事故の型別に分類すると、「墜落・転落」によるものが最も多くなっています。次いで、「動作の反動・無理な動作」、「転倒」、「交通事故(道路)」が多くなっており、「交通事故(道路)」によるものでは死亡者が1人となっています。

起因物についてみると、「墜落・転落」ではトラック、フォークリフトなどの動力運搬機、「転倒」では通路によるものが多くなっています。

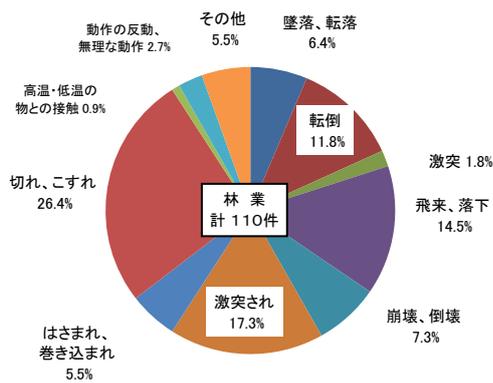
事故の型別災害発生状況(林業)

高知労働局

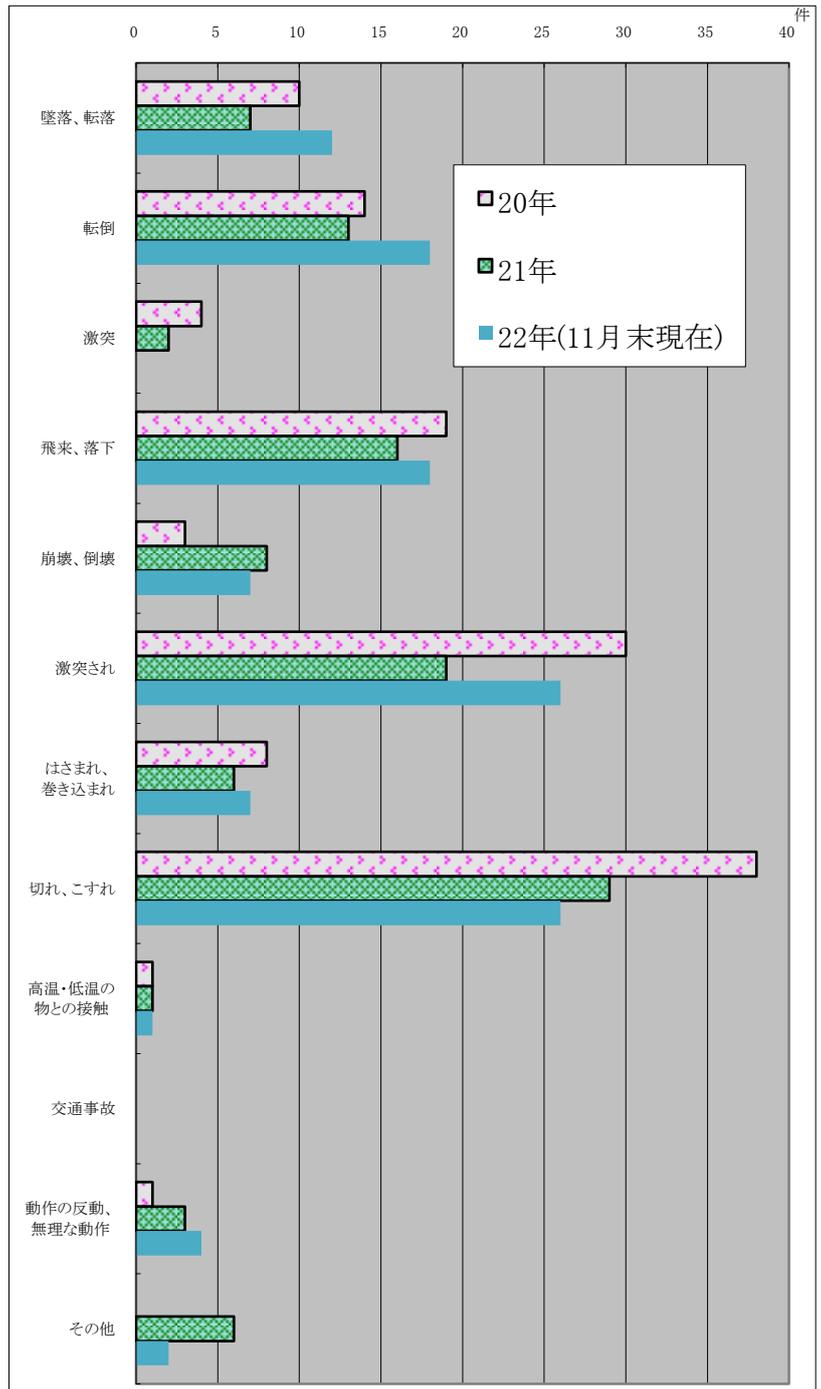
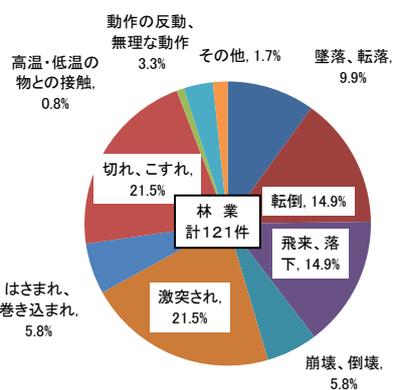
平成20年



平成21年



平成22年(11月末現在)



注:「その他」は、上記の単独事故型表示した以外の型である、「踏み抜き」・「おぼれ」等を合算してある。

林業における労働災害を事故の型別に分類すると、「激突され」、「切れ・こすれ」によるものが最も多くなっています。次いで、「転倒」、「飛来・落下」、「墜落・転落」によるものが多くなっており、「墜落・転落」によるものでは死亡者が1人となっています。

また、起因物についてみると、「激突され」、「飛来・落下」、「はさまれ・巻き込まれ」では伐倒木や立木等が、「切れ・こすれ」ではチェーンソーが、「墜落・転落」、「転倒」では地山、岩石がそれぞれ多くなっています。